



# 専教寺報

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺

題字 大橋曾水

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033

TEL.0866-82-0488

URL.<http://www.senkyoji.com/>

E-Mail.[senkyoji@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:senkyoji@cocoa.ocn.ne.jp)



## 阿弥陀さま、親さま

住職 釋龍生

新しい家族である子ども  
の父親になって、  
四月で十ヶ月になりました。  
す。まだ十ヶ月なので、  
父親のちの字も分かって  
いない新米父親で、  
坊守とともに子育てに  
奮闘の日々です。そんな  
子どもと過ごす日々  
の中、この一年に満た  
ない僅かな時間ですが、  
子どもに教えられるこ  
ともたくさんあります。  
三ヶ月ぐらい前から、  
子どもの夜泣きが始ま  
りました。赤ちゃんな  
ので、夜中であろうが  
関係なく大きな口をあ  
けて、大きな声で遠慮  
なく泣きます。子育て

の主だったことは、坊  
守にまかせていますの  
で、夜泣きが始まると  
坊守が子どもをあやし  
ます。「<sup>おん</sup>照くん、どう  
したの、いやな夢を見  
たのかな、母さんがこ  
こにいるから大丈夫だ  
よ。」夜泣きが始まる  
と、ぐっすりと寝込ん  
でいる時であろうが、  
坊守はすぐに子どもの  
そばに寄り添って、子  
どもをあやします。日  
によっては夜中に何回  
も起きてあやし続ける  
ことがあります。私は  
寺の日々の仕事がある  
ので、夜中は床に就い  
たまま、坊守が子ども  
をあやす声や子どもに  
優しく歌いかける声を  
かすかに聞いているだ

けで申し訳ない気持ち  
でいっぱいになります。  
そして坊守のその姿や  
声に、私は子どもが生  
まれるまでの生活がい  
かに自分中心の生活で  
あったか、ということ  
を痛感します。  
浄土真宗では、ご本  
尊の阿弥陀如来さまを  
「親さま」と呼びます。  
南無阿弥陀仏というお  
名号には、「阿弥陀さ  
まにおまかせしますと  
いう心（信心）」と、  
「あなたを必ず救うと  
いうおはたらき」が、  
功德としてこめられて  
います。「無量寿経」  
に、阿弥陀さまがわた  
したち生きとし生ける  
もの全てを救うと誓わ  
れて、完成された願い、

四十八願の中心、第十八願に、

「わたしが仏になるとき、すべての人々が心から信じて、わたしの国に

生まれたいと願い、わずか十回でも念仏して、

もし生まれることができないようなら、わたしは決してさとりを開

きません。云々」とあります。阿弥陀さま

の願いには、私たちを救う阿弥陀さまの救いのは

たらきだけでなく、阿弥陀さまを信じておまかせ

する心（信心）までも、阿弥陀さまの側で整えて

くださっています。そしてその功德の全てを南無

阿弥陀仏というお念仏（呼び声）にこめて、私

たちの身の上に常に届けてくださっています。宗祖の親鸞聖人は、門弟

に宛てたお手紙（御消息）の中で、

「信心の定まるとき往生また定まるなり」とお示しになられます。

ですから、救われるということは、そのまま阿弥陀さまから信心を二心な

くいただくこと、ということになります。私たちは、日常においてどうし

ても阿弥陀さまの救いへの感謝を忘れたり、そっ

ぽを向いたりしながら生活しています。しかし阿

弥陀さまは、背を向けて逃げまどう私たちを片時

も忘れず、そのまま抱きかかえてでも必ず救うと、

約束をしてくださっています。そして私たちを包み込みながら、私たちの

生き様を心配してくださっています。それが「親さま」といわれる由縁です。坊守の子どもを思う心、

### 参考

「浄土三部経」現代語版

本願寺出版社

## 専教寺講座 ※諸事情による日時の変更あり

**写経** 午後1時30分より いずれも第3月曜日

**仏教讃歌** 午前9時30分より いずれも第4木曜日

どなたでもご参加できます。お気軽にご参加ください。

# 専教寺ミニ一本棚

坊守 佐々木ひろみ

本堂に昨年設置した小さな本棚をご存知でしょうか。今回は、この本棚にある本の一部を紹介させていただきます。

「もしも四十五億年の地球の歴史を一年間に縮めたら・・・一月一日に地球誕生。（月や陸・海・大気ができて、氷河期などを経て）大みそか近くになって、ようやく人類登場」思わず「へえ」と言ってしまうこの絵本は、『もしも地球がひとつのリンゴだったら』（小峰書店）です。想

像するのが難しい大きなもの（歴史や人口や食べ物など、あらゆるもの）を縮めて、身近なものに例えて、見えるようにしています。例えのおもしろさだけでなく、今、目の前のことで一喜一憂している日々がとてとても小さなものであるということ、でも、歴史上の多くの人のそんな日々が集まって今があるということに改めて気づかされます。

次に、本願寺絵本シリーズ（本願寺出版社）です。『お釈迦さま』は、お釈迦さまの一生が分かりやすい文と絵で描かれています。

『お釈迦さまのものがたりⅠⅡⅢ』は、命の尊さや大切さ、正しい生き方について、易しい文でありながら深く考えさせられる物語が収められています。

そして、『ぼくを探しに』（講談社）を紹介します。自分のかけらを探す「ぼく」。足りないものをうめようと、いろいろな試み、

努力、失敗・・・試行錯誤を繰り返します。かけらを見つけて完璧になったように見えても、それでは何かおもしろくない。そしてまた、かけた形で動き出します。簡単な文と簡単な絵で描かれた短い

絵本です。きっと、子どもが読むと、親しみやすい絵と話がスッと入ってくると思います。大人が読むと、自然と「ぼく」を自分に置き換えて読み進めるのではないでしょうか。人によって、また同じ人でも読む時期によって、味わい方が変わってくるかもしれません。

お寺にお参りするお子さんが、絵本をよく手に取って見てくれます。先日お参りされたご家族は、お子さんが手に取った絵本を、お父さんが一緒に読んで、会話する姿が見られて、いいなと思いました。ここで紹介させていた

だいたいの絵本は、ほんの一部です。絵本は子どもが読むもの、と決めてしまわず、ぜひ手に取って読んでみてください。



## 永代経法要に寄せて

前坊守 佐々木京子

二〇〇〇年九月、アメリカのサンフランシスコで、浄土真宗北米開教百周年記念法要が勤修されました。

百数十年前、北米に新天地を求めて日本から移住した人々を待っていたのは、想像とはほど遠い艱難<sup>かんなん</sup>辛苦<sup>しんく</sup>の生活でした。山林を切り開き、荒野を開墾し、掘って小屋から始まった筆舌に尽くしがたい暮らしの中で、浄土真宗門徒の人々は、「自分が生ま

れた時から聴いて育った私の宗旨のお説法が聴きたい。先生（布教使）をアメリカへ派遣していただきたい。」という嘆願書を本山、西本願寺に出したのであります。そして、本山から北米へ布教使が派遣されたのが、百年前ということです。

百年前の米国では、キリスト教、イスラム教など、仏教徒にとっては異宗教ばかり。そんな中で、浄土真宗の教えを聴くことを熱望する移住者の待つ北米へ、当時の布教使は、船で何日もかけて海を

渡って行きました。この日を待ちわびていた人々は、計り知れない喜びに包まれたことと思えます。

異国で、なつかしい浄土真宗の法話をお聴聞する人々の顔には、苦勞のしわが深くきざまれている

ことでしょうか。しかし表情は法悦にやすらいでいたことでしょうか。人々は、阿弥陀如来のみ心を聴き、親鸞聖人の教えにみちびかれて念仏を称えつつ（浄土真宗の教章）数多の苦難を乗り越えていきました。

異国でひたすらみ教えを求めた先祖の思いは、二世、三世へと引き継がれました。寺院も建立され、法要、行事が営まれ、

人々の心のよりどころとなつていきます。子、孫、ひ孫の代も先祖の願いに  
応えて、聞法と仏恩報謝  
につとめ、お念仏の輪が  
ひろがっていることでは  
う。

永代経法要が近づくと、  
北米開教の歴史に思いを  
馳せ、連綿たる尊いご縁  
に胸が熱くなります。

当専教寺におきまして  
も、子や孫にみ教えを聴  
いてほしいと、聞法の道  
場であるお寺を、ご先祖  
の方々が代々護ってきて  
くださいました。おかげ

さまで、今私たちはみ教  
えに遇うことができいま  
す。ご先祖にお礼申し  
このご縁が永代続きます  
ようにと、懇念こめて今

年も永代経法要が勤修さ  
れます。皆様ごいっしょ  
にお勤めできることを樂  
しみに、諸準備が進めら  
れていきます。お誘い合  
せてご参拝くださり、共  
にお聴聞いたしましょう。



## 4月28日に、当山では永代経法要をお勤めいたします。

今年の永代経法要は4月28日（日）です。ぜひお参りいただいて、共に「阿弥陀経」をご唱和して、仏さまになられた先達のご縁に遇わせて頂くと同時に、お念仏のみ教えを頂く私達が、社会を共に生きる上で本当に大事なことは何なのか、考える機縁にして頂けたらと思います。

このたびのこのご縁は 初事と思うべし      このたびのこのご縁は 我一人の為と思うべし  
このたびのこのご縁は 今生最後と思うべし